

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4471100406		
法人名	医療法人悠隆会		
事業所名	グループホーム「たんぼぼの家」A棟		
所在地	宇佐市大字樋田45-1		
自己評価作成日	平成22年9月18日	評価結果市町村受理日	平成23年1月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ap.oita-kaigo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4471100406&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成22年10月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

階段、壁面に手作りレイアウト、踊り場には季節を感じる手作り作品を貼ってます。心なごむ雰囲気作りをしています。清潔感あふれるホール内で、職員と利用者の明るく笑い声が聞こえてきます。音楽に合わせて足踏み体操やズンドコ体操も行っています。利用者の状況、状態によって様々なレクレーション活動もしています。地域に根ざしたホーム、開かれたホームを目指しています。利用者と一緒に、ゆったりと過ごす時間を大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 1.外部評価の結果や、日常の気づきを全員で共有し、改善に向けた取り組みを行っている。
- 2.利用者の日常生活の写真をたくさん撮り、アルバムを作り、家族の方々との交流の1つとして提供している。
- 3.職員全員が、利用者に対して、穏やかに優しい態度で接している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を職員で確認し、ミーティングで唱和して、理念がケアに反映されるよう意識をもって日々の実践に取り組んでいる。	全員で話し合い、地域密着型サービスの意義をふまえた理念を作り、見やすいところに提示している。毎朝ミーティング時に理念を唱和し、意識づけを行うことで、日々のケアに反映している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	催し物がある時は、近隣の方、民生委員等呼びかけを行なっている。地域の催し(秋の収穫祭ハロウィン)に利用者と仮装して出かけたりし、近所の方より、畑で作った花など届けてくれるようになった。	事業所での運動会や夏祭り、神楽などの行事を行う時、近隣の方々や民生委員、老人会などに参加の声かけをしている。地域行事のハロウィンには利用者と一緒に仮装し、参加している。また、みかんちぎりの手伝いに行ったり、近隣の方から野菜の差し入れがあったり、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生や研修生の受け入れは積極的に行っている。地域の方から相談を受けたり、アドバイスをおこなうこともある。老人会の集まりで、認知症についてお話をしていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開錠については、実践内容を報告し、アドバイスをうける、それらを踏まえて開錠し実践している。二階なので安全面を考えると、どうなのか?という意見もいただいた。	2ヶ月に一度、推進委員と家族全員に、開催日と議題をお知らせし、案内している。現状や外部評価結果の報告を行い、アドバイスを受けたり、防災についての話し合いなども行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	たんぼぼ通信の配布をし、地域運営推進会議にも参加していただいている。アドバイスをしてくれることもある。サービスの取り組みや勉強会、研修報告の取り組み等報告している。	市へ「たんぼぼ通信」を毎月持参し、ケアサービスの取り組みなどを報告している。市からアドバイスをもらうなど、協力関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員もかぎをかけない安全な暮らしをテーマにしている為、開錠については、話し合いを重ね、取り組んでいる。状況をみながら鍵の開閉を実施している。	管理者は身体拘束についての勉強会を行って、職員の共有認識を図っているが、日常的に、具体的な行為の振り返りを行うには至っていない。	事業所における身体拘束に関する方針を定め、国が示している「身体的拘束禁止の対象となる具体的な行為」の理解の徹底を図り、日々のケア、振り返りを行うことが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員を選任して、勉強会で定期的に話し合いをしている。職員も周知している。家族にも開錠については家族会で説明、納得の上で開錠をする方向で取り組んでいる。		

事業者名:グループホームたんぽぽの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が一人に対応しているので、職員には勉強会で理解していただいている。現在2名の方の利用がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に時間をとって、詳細に説明している。看取りの指針、医療連携体制については説明、同意はもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	遠方の家族には、手紙や写真の送付、要望を聞いている。又訪問時、お茶を飲みながら要望等聞いている。それをもとに勉強会で話し合いサービスの向上に繋げている。	家族には、毎月の請求書とともに、日常生活の写真や手紙を送付しており、家族会開催時や訪問時には、何でも言ってもらえるような雰囲気作りをしている。出された意見などは勉強会で話し合い、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	家族には手紙や訪問時、家族会などで意見が出やすい雰囲気作りをしている。それとともに、勉強会等で話し合いサービスに反映させている。	管理者は、ミーティング、勉強会、ケア会議などで意見を聞き、全員で話し合いながら役割分担を決めたり、業務の改善に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は頻繁に訪問し、利用者、職員と食事したりすることもある。向上心をもって働けるように配慮している。健康診断も定期的に行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修も職員の能力に応じて受講し、法人内実習をすることもある。また外部研修を受けた記録を残し、勉強会で発表し、閲覧し捺印している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者相互のホールへ見学に行くことで交流を深めている。サービスの質の向上に努め11月に他のホールへ出かけて勉強会をする予定である。		

事業者名:グループホームたんぽぽの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学をしていただき、お話をしながら、その人がどのような生活を希望されているのか探り、不安にならないように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が安心するように、要望を聞き応じるように努め、納得していただいてから、次のステップに進んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始前には必ず面接を行っている。又状況によっては、ホームの見学に来ていただく事もある。本人や、家族が必要としている事があれば、柔軟に対応し、早急であれば他の事業所の紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族と連携をとり、利用者の近況報告は定期的に行っている。常に利用者のために協力関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時は、利用者と家族がお話できる場所作りをし、生活状況、健康面について、お話をしている。遠方の家族には定期的に「たんぽぽ通信」「情報提供」など、送付している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近況報告のはがきを出したり、年賀状を書いて送付したり、遠方の方には、電話をかけ利用者と話していただけるように配慮 また、知人も定期的に訪問している。	知人や家族へ、年賀状や手紙を出したり、知人の訪問もあるが、1人ひとりの入居前の馴染みの場所や関係するものなどの情報が少ないために、十分な支援ができていない。	本人がこれまでに培ってきた馴染みの人や生活習慣などを把握し、関係が途切れないよう、継続的な支援をしていくことが求められる。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士助け合いながら、作業をしたり遊んだりすることも多い、中には感情の変化が強く出る方もおられるため、トラブルになる前に職員がそれとなく仲介役に入ることもある。		

事業者名:グループホームたんぽぽの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた場合は支援方法、注意点など、情報提供をおこなっている。必要があればその都度連携を心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉で言い表せない方には、本人の表情、しぐさ行動など観察し、また、職員間で共有できるように話し合いケアに繋げている。	日々の関わりの中で、声かけをしたり、言葉や表情などから把握するように努めている。意思疎通が困難な方は、家族の訪問時に情報を得るようにし、ミーティングなどで情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	独居の方、子供のいない方など、親戚に聞いたりして情報を収集しているが困難さもある。近隣の方から情報を得る事もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックをして、一人ひとりの状況をミーティングで把握し、日々のケアの中で「できること」「できないこと」を見極めし、その方の全体像の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスは定期的に行い、介護計画の見直しも随時実施している。身体的に変化があればモニタリングをして家族にも意見を聞くようにしている。	利用者の思いや意向をもとに、ホーム長、担当者、看護師のいる時にケアカンファレンスを実施し、介護計画を作成している。プランに沿って実践、モニタリング、見直しを行っている。本人の楽しいことや生活リハビリを取り入れ、機能低下防止に留意した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録、食事、水分量の記録、実践表、介護経過等個別に記入、担当介護職を中心に全職員で情報を共有し、話し合いながら見直しや評価をして、実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助は家族に代わって対応し、家族の必要性があれば連絡をとって、対応している。		

事業者名:グループホームたんぽぽの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域運営推進会議をすることで、地域との関係が強化されるようになり、ホームの行事にも参加していただくようになった。協力関係を築いている。消防団の方にも、呼びかけ今後の協力体制が取れるようになった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望などを聞き、納得すれば、同意書の記入をしていただき、柔軟に対応している。医療機関との情報提供をして、関係を蜜に結んでいる。歯科受診も訪問診療にきてもらっている。	協力医療機関が定期的に訪問診療を行っている。かかりつけ医や緊急時の受診は家族同伴のこともあるが、基本的に事業所が付き添い、受診後は家族に報告を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しているため、常に利用者の健康管理を行い、相談、助言、異常の早期発見に対応して、適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、2日に1回は必ず見舞いに行き、情報交換を行い、家族とも共働しながら、早期退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期における意思確認や、重度化における医療連携についての確認も行っている。家族、利用者、医療連携、介護職などすべての問題がクリアした時、終末期のケアが迎えられるように意志確認しながら取り組んでいる。	重度化に伴う意思確認を行い、本人や家族の意向をふまえ、安心して最後が迎えられるように、医療・事業所との連携がとれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、緊急時については、繰り返し勉強会で学んで居る為、日常的に急変しても実践に活かすことができるようになった。夜間での緊急対応についてもマニュアルで周知徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成している。年2回消防署立会いで実施。また、夜間を想定して搬送の方法等を行った。近隣の方にも協力の呼びかけを行った。	マニュアルを作成し、年2回、消防署の立ち会いで避難訓練・救急法の学習を実施している。運営推進会議や近隣への協力の呼びかけを行い、地域の消防団との協力関係もできている。	

事業者名:グループホームたんぽぽの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念のもと、日々のケアに取り組んでいる。勉強会で何度も学んでいるので、職員も周知している。	計画的に学習会を開催し、尊厳の無視やプライバシーを損ねる具体的な行為や言動などについて、日常のケアの振り返りを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事についてはアンケートをとり、希望に沿って作るようにしている。日々の関わりのなかで、本人の意向、表情をみて読み取り対応するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、その日その時の本人の状態に合わせて生活できるよう配慮して、個別ケアに取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事のときは化粧したり、髪かざりをつけたり楽しんでもらっている。服装も選んでもらいます。、自己決定できない方には、その人らしい服装を着ていただきます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ごぼうのさがきなど下準備を職員とおこなったり、お茶碗ふき、お膳ふきなど利用者と共におこない、食事と一緒に食べ「たまご焼き」がおいしそうだなといわれ、おすそわけすることもある。	重度化している利用者が、楽しく食事ができるように、個々に合わせた食事形態や、食事時間などに配慮している。職員と利用者が一緒に下準備や片付けを行ったり、会話をしながら食卓を囲んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態も個々にあわせて作り、水分も麦茶、ジュース、ゼリー等工夫しながら、1日の摂取量の確認をしている。栄養士にみてもらいながら、食事の変更などもおこなっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに応じた口腔ケアを行い出来ない人にはガーゼやスポンジを使用している。洗面所で口腔の洗浄 義歯洗浄をする。嚥下障害による肺炎予防に努めている。		

事業者名:グループホームたんぽぽの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を大切にしており、尿意のない方も時間をみながらトイレ誘導し、排泄できるように支援している。	利用者1人ひとりの排泄パターンを把握し、できるだけオムツ使用を避け、トイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、おやつ、食事も便通のよいものをだすように工夫している。体操や散歩等をして便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回実施しているが希望があれば、B棟の入浴日に入ることもできる。入浴の順番や、ゆっくり入りたい方、お湯加減など、個々にあわせて入浴してもらっている。	週に3回と入浴日が決められており、利用者の生活習慣や希望に添った入浴日・時間ではなく、個別の入浴支援は行われていない。	職員の都合で入浴日や時間を決めてしまわずに、利用者のその日の希望に添えるよう、工夫することが望まれる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ日中の活動をして、良眠できるように努めているが、寝つけない時は、温かい飲み物を飲みながらお話をしたり、落ち着くまでそばによりそっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認を行い、薬に対する理解を深めるために、勉強会を行っている。眠剤を飲まれている方については、睡眠状態を把握し、できるだけ服用しないよう日中の活動に配慮している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の役割、楽しみごと、できることを把握し支援している。外出したい時「どこにいきたいのか」利用者に相談しながら行うこともある。嗜好品のアンケートを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出する方が固定化しているため、外出できない方について配慮をしていきたい。積極的に外出に取り組んでいきたい。	利用者が重度化しているために、日常的に外出できる人が限られており、利用者が事業所の中だけで過ごすことが多い。	ホームが2階にあるため、車いすなどで外出しにくい面があるが、重度化しても、本人に合わせた移動の配慮をしながら、外気に触れる支援をしていくことが望まれる。

事業者名:グループホームたんぽぽの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時、おこずかいについては、ご家族から預かるということが少ない。必要なものは家族が買ってくるという方も少なくないので家族の意向も大切にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	近況報告、年賀状の送付をしている。御礼の電話は必ず利用者と話すように配慮し、また、手紙に写真を同封することもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや玄関 階段には季節に合った飾付けをして、季節感をだすようにしている、ホールは広く活用する為 転倒防止や車いすがスムーズに通れるように余分なものは排除している。	調理の音や香りで、生活感があり、1日の大半をホールで過ごしている利用者にとって、テーブルやソファの配置を考慮し、くつろげる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに座ってくつろいでいたり、2~3人で座ってお話している姿も見受けられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、なじみの物、大切にしているものを持ってきて欲しいとお願いしています。カレンダーを飾ったり、本人が作った物、また、塗り絵などを飾っている。	仏壇や鏡台などは馴染みのものが持ち込まれ、家族の写真や、元気な時に書かれた書画などの作品が壁に貼られており、それぞれが個性的な居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室がわかるように目印をしている。一人ひとり物の配置については配慮し、安全にすごしていただくようにしている。		